

I. 一般目標 (General Instructional Objective)

臨床診断および治療方針に深く関わる病理について、その基本的な考え方、知識および技術を研修する。

II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

病理医の業務、即ち病理解剖、病理組織診断・細胞診、術中迅速病理診断についての基本的知識を研修し、病理学的な見方、考え方、知識、技術を習得することを行動目標とする。

1. 病理組織診断の基本的知識を研修する。

臨床各科から提出される生検標本、手術切除材料の病理診断について研修する。また、特殊染色、免疫組織化学、遺伝子検査の必要性・有用性を理解する事で、病理形態学的思考を確立する。手術材料に関しては、肉眼的観察、切り出し、写真撮影、組織学的検索に基づく病変の構築図を作成し、臨床医を交えて臨床病理学的検討を行う為の知識の整理を行う。

2. 病理解剖診断の基本的知識を研修する。

病理解剖時における全身および各臓器の肉眼観察および組織学的検討の方法論を理解し、病因や死因に対する病態生理を包括的に理解する力をつける。

3. 術中迅速病理診断を研修する。

手術時に提出される組織から凍結標本を作成し、病理組織診断を行うまでの流れを研修する。特に、術中迅速診断の有用性、重要性と限界を理解し、臨床医へのコミュニケーションの取り方についても研修する。

III. 方略 (Learning Strategies)

指導医、上級医と共に、病理解剖、病理診断、術中迅速の研修を行う。研修期間最後に、自己学習の成果をカンファレンスで報告する。

IV. 経験できる疾患など

病院病理部の主な業務は、病理組織診断、術中迅速診断、細胞診、病理解剖などである。当科での検体数は、1年間で、病理組織診断が約12,000例、術中迅速診断が約500例、細胞診が約10,000例、病理解剖が30~40例である。病理診断は臨床各科に関与しており、広範な領域の疾患を経験できる。

また、研修期間内に特定領域に特化した研修体制をとる事も可能である。

V. 評価 (Evaluation)

Minimum EPOC、自己学習発表による自己評価・指導医評価。指導医になどによる形成的評価。

VI. 指導者と研修施設

1. 診療部長 秋葉 純
2. 指導責任者 内藤 嘉紀
3. 指導医 秋葉 純、内藤 嘉紀、三原 勇太郎
4. 研修施設 久留米大学病院

VII. 週間予定

基本的には月曜日から金曜日まで病理業務に携わる。毎週火曜日8時に開催されるドーナツカンファレンス(英語勉強会)は要出席となる。また、不定期ではあるが、週間CPCもしくはラボ・ミーティングが開催され、これらも参加必須である。病理解剖は不定期に行われるので、病理解剖依頼があった時点で参加を促す事とする。病理診断については、指導医と協議のうえで、各自の進路等を考慮した研修内容を計画する。

月 病理組織診断、術中迅速病理診断

火 ドーナツカンファレンス、病理解剖所見会 (Weekly CPC)、カンファランス

水 病理組織診断、術中迅速病理診断

木 病理組織診断、術中迅速病理診断

金 病理組織診断、術中迅速病理診断

久留米大学C P Cが年6回(4月、6月、9月、11月、1月、3月)に行われ、参加必須である。また、以下のカンファレンスには積極的な参加が望まれる。HCCカンファ、胆膵カンファ、血液カンファ、乳腺カンファ、婦人科カンファ、小児肝臓カンファ、脳腫瘍カンファ、肝炎カンファ

